

令和 6 年度「日田市農業振興ビジョン」推進委員会議事録

R6.11.22(金) 14:00～

4 階庁議室

1. 開会（事務局）

2. 課長あいさつ（農業振興課長）

3. 委嘱状交付

4. 推進委員会委員紹介

名簿順に紹介

5. 委員長、副委員長選出

6. 議題

(1) 主要事業の各施策への反映状況について

(2) 品目振興の令和 5 年度実績値について

（事務局）資料 3 にて説明

●意見集約

【果樹・野菜・花卉・米等の安定生産と生産拡大について（資料 3 の 3 ページ）】

1) こういった支援事業を行いながら、伸ばすべき品目については実績として見ていると思います。

と言いますが、梨等につきましては数字的に伸びてきているという形でございます。

一方で大分県が、短期集中品目で白ネギ、ピーマン、こういった部分で白ネギについてはどうしても高温という形で、今年度については隣の玖珠町まで生産者が上がって生産をしているという状況で、なかなか平地での栽培は困難というところで、園地は少し標高の高い所に上がっています。次年度につきましても約 2 件で 2 町歩くらい伸ばしていく計画が挙がってきております。合わせてピーマンについては、玖珠の方に選果機等を入れていただきながら、日田から持ち込みを行っております。生産者が若いので、あとは技術力がもう少し足りないのかなと感じております。

こういった部分を上げていけば、ピーマンについては、個人的には夏場の露地野菜の中では非常に有効な品種と考えておりますので、今後も伸ばしていくという形になるかと思います。ただ全体的に、この 2 年を見ても気候もありますが、生産量が落ちているのが非常に気になるところです。特に令和 6 年度ですが、生産量が物凄く落ちているという部分は、現場としてこれが気候的なものなのか、昨日現場でも話したのですが、出来た物ではなく作るものに変えていく、そういう考え方に農協もまた生産者と一緒に考え方を改めていかないと気候にチャレンジするということやっていかないと、この日田の強みを活かす部分では厳しいのではないかと考えています。とりわけ販売も大事なんですが、生産量を上げていくことが近々の課題であると思っています。

【地域の特性をいかした作物の推進、産直野菜の生産拡大と出荷体制の整備について（資料 3 の 4 ページ）】

ージ】

- 2) 産直関係、木の花ガルテンですが、コロナで非常に出荷量が落ちていたのですが、今はコロナ前まで回復したような状況があります。ただ、やはり出荷量が以前に比べて少ないというのは非常に問題です。

というのは、やはり高齢化、先ほどお話にありましたが、気候不順で今まで栽培できていた野菜ができないというような状況があります。ついでに大山の場合、梅・スモモが不作だったこともあり、経営意欲が非常に低くなっているのではないかと感じており、それで全体としての木の花ガルテン等の野菜等の出荷量は減っているという状況です。ただお客さんが沢山来ていただいております、販売額は他にも色々な加工品等も含めてありますので、伸びている状況です。物さえあればまだまだ木の花ガルテンは伸びると思っています。その辺の工夫を、これからしなければいけないと思っています。

【足腰の強い畜産業の振興について(資料3の5ページ)】

- 3) 畜産の方ですが、肉用牛の方はあまり詳しくはないですが、どちらとも共通して、肉用牛・酪農について言えるとすれば、やはり飼料費の高騰や燃料費の高騰が経営を圧迫しているというところは、令和5年度もそうですし、今年度も引き続きそういう状態が続いているというところ。肉用牛、酪農もそうですが、肉用素牛が非常に安くなっているというところで、肉用牛の繁殖農家さんもそうですし、酪農牛の集乳がすごく下がっていると思われますので、今年は非常に厳しい状態にあります。

生乳生産量としては、昨年実績のとおり少し前に全国的に牛乳が余ってしまったということで、生産抑制という政策で全国的に乳量を抑えつけられたところがあるのですが、今年度生産しようというところにあっても、日田地区は今年特にかなり暑かったということで、そこでまた生産量が昨年より落ちているという状況になっておりますので、これから先の課題とすれば、この日田地区非常に暑いということで、遮熱の対策とかやはり夏に種付けとか、きちんと種が付いてないと来年度きちんと生乳生産ができないという現状がありますので、一応繁殖成績をあげるために夏の遮熱の対策をしっかり取り組んでいくというところが、今のところ非常に大事になってくると思います。合わせて、後継牛の能力を上げるために、効率的に高能力の牛を生産していくというところで取り組んでいければいいのではないかと思います。いずれにしても、現状、非常にコストがあがっているというところで、肉用牛、酪農も非常に難しいというところでございます。

【生産部門との密接な連携によるマーケットインに向けた取組の推進について(資料3の6ページ)】

- 4) 販路拡大についてですが、ハレノヒタフルーツという梨と西瓜とぶどうの事業が始まって3年目だと思うのですが、初年度から毎年順調に成長してきた日田市の事業だったのではないかと認識です。僕はスイカ農家なので、梨とぶどうも客観的に見ており、凄く順調だなという感触はありますし、今年ハレノヒの3年目にして過去最高収益だったのではないかと思います。市の事業からスタートしたのですが、生産者それぞれが百貨店のバイヤーの方でしたり、色々な食品関係の方々と独自につながりはじめており、そういう関係で今後それぞれ収益は伸ばしていくと思います。僕は県の会長をしている立場上、新規就農者の方と触れ合う機会が多いのですが、こういう販路拡大の日田市の事業とかは、新規就農者の方の農業を頑張っていく上でのやる気にも繋がっているなと新規就農者の方と話しており、凄く感じる部分があります。去年のぶどう農家が2名増え、梨では1名、僕が把握している中でも来年また数名日田で農業をしたいという方がいるという認識で、会って話すと、「日田の農業は今盛り上がっていますよね」という話が非農家出身の方が農家になりたいという希望者が出てくるようになってきているので凄くと思っています。

7ページについては、そうですね、今年、僕が話せるのはこの資料には載っていないと思うのですが、今

年南国フルーツと一緒に日田産フルーツパーティーというものを、南国フルーツパーラーという南国フルーツが始めた新店で行いましたが、そこで梨とスイカ、ぶどうの生産者が出向いて僕たちが作ったフルーツと一緒に調理して頂き、席についてフルーツのことを説明しながら話をするという機会があったのですが、日田のフルーツを福岡に住んでる方みんなが知っている状態ではないという認識でももちろんあるのですが、品質の面で勝負できるところは凄くあるのだらうなというのが実感としてありました。そんな形で農業振興課だけではなく、商工労政課や観光課の方にもしっかり力になっていただいて、様々な側面で支援をいただいているなという実感が凄くあります。ありがとうございます。

【農商工観の連携・6次産業化への展開について(資料3の7ページ)】

- 5) おおいた AFF 女性ネットワークのグループとしては、農業者の農業、漁業に携わる女性のグループが多いのですが、今年は農業祭でみのりフェスタという形で目標を立てて、そこで出店するという形で取り組みをしてみました。今は農業だけという形の方が多いのですが、加工もしたいという事で、今で言う6次産業化という形で販売をしたいという方が多くなっていると思います。

日田市としては、やっと新規就農をしたという方もいらっしゃるのですが、まだ加工とかまではいかなのですが、女性の面としては、作るというよりも加工するとか接客するとか、そういった形の流れが強くなってきたと考えます。

【担い手の明確化と農地の集積について(資料3の8ページ)】

- 6) 地域計画については、来年の3月までに全地区作り上げないといけないということで、市と農業委員会と各地区に入りながら策定を進めているのですが、話の中で10年後の担い手というのは中々まだ見つけられないということで、とりあえず期限が迫っている、まず作りながら常に集落と話しながら、バージョンアップしていくことになると思うのですが、いずれにしても担い手がいないうちに農地を守っていくかという課題であります。そうした中で、集落営農組織がもう20年近くになるのですが、日田市では35ぐらいの任意組織があるのですが、そのうちの現在10が法人ということですが、要は3条で農地を借りるためには法人でないといけないのですが、任意でも特定作業委託ということで、集積率にはカウントしていくのですが、小さな組織で集落を作った場合は当然、構成員の高齢化、合わせてオペレーターも高齢化に伴い減少している、さらには資材、機械が高騰している中で市の方も今、集落営農支援というところで、600万円の予算を組んでいただいています。市の単独でこういったところまで支援していただいている所は県下にはないのですが、これもまだ組織としてはもっと要望していきたい所ではあるのですが…。いずれにしても法人化までもっていくということについては、中々各組織二の足を踏んでいるのが実態です。要は収益を上げられない、ましてや構成員で守れないから雇用という動きになってきているが、雇用すれば人件費が伴いますので、当然収益が確保されなければいけないという事で、中々雇用まで結びついてないというのが日田市の実態です。これについては県の方も、各組織に1,500万円まで上げなさい、ということで園芸作物を導入して何とか組織の強化ということで支援策を作ってもらっているのですが、それに手を挙げる組織が日田市には少ないという状況のようです。

そういった実情ですけど、いずれにしても農地を守っていくかといけませんので、新規就農もそうですがいかに担い手を作っていくかという事が今後の課題です。そういった中で、特に認定農業者ですが、その推移が中々ビジョンの中で見えてないというのが、年々、逆にやっている方は多くなっている新規も出てきているのですが、全体数は減少しているのではないかと思います。なので、中心的に農業を担う人、いかに新人も含めて育てていくか、それができないときは組織で何とかしてもらおう方向になってくるのではないかと思います。集落もなかなか賛同できないから連携なども県下でも模索をし

ているようです。

それから、集積率の関係ですが、面積で示しておりますが、国の中間管理機構への集積は80と高い目標を立てているのですが、単なる貸し借りだけで特定作業受託も含めたり、また認定農業者が自作している分も含めてカウントすると80くらいにはなるのですが、要は県下は44、5くらい、日田市も大体そのくらいの集積率だと思います。高いところは北海道、県内でいえば宇佐市とか要は農業盛んで、さらには耕作条件の良い所ということで、そういった場所は当然高くなってきている中で、日田市は中山間地で耕作しにくい土地が多いという流れで、中々面積の集積が上がってきていない中で、特定の作物に応じた梨、ぶどうなども行っていますが、逆に地域計画で目標地図を作るのですが、この一帯に誰も担い手がいなくなれば逆に面的な整備と合わせて、そこで何かを作るといったようにマッチングしながら、行政と一体となって振興策を練っていかないと、ここで担い手にまかせるというのがあるのですが、農協の共販も頑張ってもらいたいと思いますし、色々と言いたい事も多いのですが、そういった中で今後地域計画の目標地図は非常に重要になってくると思っているところです。

【新規就農者や農業後継者の確保・育成について(資料3の9ページ)】

- 7) 新規就農や農業後継者の確保・育成ということで、日田青年農業研究会連絡協議会で、ひた農ラジオという番組を通して、日田の若手農業者の活動をPRしています。このひた農ラジオには、県の職員と市の職員の方も入っていただいて、農家と県と市の垣根を超えたグループでそれぞれの活動を通して、どちらの方にもプラスになるように、例えば仕事だけではなく、関わりあうことで普段話せない内容などを気軽に話せるような形で活動を行っているのですが、今年からブドウの新規就農者2名、日田全部で5名が加入して頂いて、活動を徐々に自分も含めてメンバーが徐々に増えていると思ってます。自分も令和3年度に新規就農し、パクチーを作っているのですが、大山地区で就農しており周りも高齢化が進んで畑とかも空いてきていますが、地域としては担い手を支援していくという体制が今自分が営農している地区では足りているように感じます。自分も畑の方では、スムーズに探すこともでき、空きハウスなども色々な方から支援いただいているので、農業を規模拡大していくには良い条件が揃っていると思います。なので、自分が実践してきたことで、今後成功事例を一つでも多く作っていけたら、また次の方に自分のノウハウを伝えていけるとと思いますし、それも含めてラジオ等で幅広く周知していきたいと思っています。

- 8) 新規就農の関係で、今年感じたところでお話させていただきます。

今年、日田市の主催で単独で初めての取組みで、農業アグリツアーという就農希望をされている方を集め、梨、ぶどう、えのき、チンゲンサイの4品目のツアーを開催していただいたのですが、その時思ったのが、日田市に就農したいという方が非常に多いという風に感じております。担い手、中々不足している中で日田市に農業をしたい人が思っていた以上に多いと感じて、非常に日田市のポテンシャルというか魅力ある品目が多いゆえに、周りから農業をしたいと言ってくれる方が多いのではないかと感じております。

そういった方をうまく取り込んでいくことが必要になってくるのですが、それに対して資材費の高騰などで中々新規で入っていただくのは難しいので、継承ハウスであったり、継承園地とかそういうもののマッチングをうまくタイミングが合うような形で行うことで、日田で農業をしたいという方をうまく取り込んでいけるのではないかと思います。

かたや心配なのが、これから5年、10年のうちに恐らく辞められる方が一気に増えてくるのではないかと心配もあるので、その方の辞められるタイミング、それから入ってきたい新規就農者の方を本当にみなさん関係者で連携し、うまく日田にスムーズに入っていただくような形でサポートできればいいの

ではないかと思っています。

そう言いながらも、オペレーターなどの担い手も少ないということなので、そこうまく組み合わせながら新しい方に入っていただくような取り組みを考えていければと思っています。

【生産基盤として有効な農地確保や農業用水施設の整備・更新について(資料 3 の 10~11 ページ)】

- 9) 過去に農業委員をしていた関係で、若い後継者と常に情報を共有しながら優良な農地を荒らさないようにということで、常に情報を交換して行っているところでございます。

実は先日の 18日に、農林水産部ほか数名の方と一緒に要望活動に行ったのですが、先ほども言われたように私たちが団塊の世代が主役で一年一年リタイアしていく状況の中で、あるスイカ白菜農家の方に伺ったら、「今、私たちが規模を維持できるのは、東南アジアの若い女性の労働者がいるから維持できているんだ」という深刻な状況を聞きました。その要望の中で、1月に理事長会の研修で長崎に行きましたが、あの時に飯盛土地改良区、南島原土地改良区、そこにはトイレがきちんと管理されており、環境に良いし、安心して気持ちよく用を足せるような状況です。特に私たちのところ、あるいはインドネシアの若い女性の方が来ておりますが、先日も松の原に行ってきたら、本当にベトナムの女性が多くいたのですが、トイレが無いのですよね。山の中で用を足すような状況で、これではいけないということで、女性、男性もそうですが安心して働けるように環境を整えていただきたい。先日、テレビで観たのですが、円安の影響で日本から韓国、台湾へ労働者が流れていくということを聞きました。やはり規模を維持するためにはそういうことも是非考えてくださいということを部長にお願いしました。私たちも今、造成して四十何年経った中で、パイプラインがどんどん破裂しているということで、今更新の事業を行っております。おかげで幹線あたりが更新して、支線にも入っているところですが漏水も少なく、水の単価が安く皆さんに使っていただけております。高い時には1㎡ 160 円くらいになった頃もありました。私のところにも若い人もいますし、土もいいし、本当に私もどうにかして若い人たちの手助けにならなくてはということで、部長さんにもお願いしながら西瓜についても品質に自信をもって出荷してもらえるように光センサーを入れていただいて、それを利用して糖度など色々な不安がないように、市場に自信をもって送り出せるような西瓜を作っているところでございます。どうにかして私も新規就農者を増やしたいと思っているのですが、中々見つからない状況です。地農業委員さんなどと常に情報を共有しながら、私の続く限り頑張っていきたいと思っています。

【安心・安全な環境保全型農業の推進について(資料 3 の 12 ページ)】

- 10) 12ページの記載事項に関することですが、地域資源利活用の事業に複数年にわたって取り組んでいただいているようで、うちの管内では営農組合さんとかが、その事業を活用しまして、堆肥を散布してもらったりと、大変助かっているという風なご意見も頂戴しているところでございます。この事業を活用したおかげで、適期に作業を法人さんができるようになったと大変喜ばれている状況にございますので、法人さんの立場からすれば、こういう事業をずっと継続していただきたいというような話を伺っているところでございます。

日田市につきましては、非常に畜産が盛んな地域ですので、耕畜連携はとても大事な取り組みであると思います。昨今、肥料代も相当高騰していますので、こういったシステムをうまく循環させることでコストダウンにつなげるような形になれば、どちらも耕種の農家も畜産農家もウィンウインの関係が成り立つのではないかと思いますので、こういったところは積極的に進めていただきたいし、県としましても何かご協力できることがございましたら、是非検討していきたいと思っていますので、何かご要望があればお伝えいただければと思います。

【美しい田園景観づくりの推進について(資料 3 の 13 ページ)】

11) つなぐ棚田、月出山のまちづくり委員会のところが、中山間の関係で棚田加算というのをいただきながら行っているのですが、私も毎年稲刈り体験には参加させていただいているのですが、単なる稲刈りというよりは都市との交流も含めたところで、稲刈りをしてそこでお米を予約していくという、今年はお米の価格も高くなっていますけど、毎年売り切れる状況になっていると伺っています。体験イベント、農業体験イベントを行う交流というのは今後も続けていく必要があると思っています。

あと鳥獣害については、林業振興課の方で有害鳥獣の関係を行っておりまして、今状況としてはイノシシの方は、少し防除とか駆除とかしていただく中で、推移的には少し減ってきている状況です。しかし、鹿の捕獲頭数については、ここ数年また少し増えてきています。これも年によって、裏表ではないですが、捕獲頭数の差というのはある状況が続いてますが、猟友会の方を中心に捕獲にも力を入れています。そして、今年度から、イノシシの猟期内の捕獲の報奨金というのが、少し低かったのですが、市の上乗せを少しして、猟期内の捕獲の報奨金自体を少し上げて、捕獲意欲をあげていただいているというところ です。

金網柵については、前年度に予約をして頂かなければいけないということもありますが、ここ数年見ると少し件数も減ってきていますので、ある程度全域にうまくいきわたってきているのかなと思っています。ただ、設置して14、5年経つ所が出てきますので、またその辺のところが次回の分になってくると思っていますし、電柵とか鹿ネットについても、一方で可能ですので、前年度に予約しなくてはならないというもどかしさはちょっとあると思うのですが、そういう補助事業を活用しながら、せっかく皆さんが作ってくれた作物を守っていただくというのが大切なことだと思いますので、被害額の減少に向けて、猟友会の方々も含めて取り組んでいきたいと思っています。

【グリーンツーリズムの推進について(資料 3 の 14 ページ)】

12) グリーンツーリズムの推進につきましては、県の方ではあまり予算を組んでというのはやってはおりません。ですが都市と農村の交流というのは、古いだいぶ以前から重要視されていて、こういう地道な活動は将来の農業の担い手づくりに繋がっていくのではないかという思想はもってございます。現在のところは取り組まれている農家さんの相談等に応じるということぐらいしか、対応はしていない状況ではございます。

7.その他

13) 担い手をサポートするということに関係するのかもしれませんが、シンプルに今作るのが難しくなっていると思います。夏が暑すぎて東南アジアみたいな夕立が来ます。そういった事もありまして、日田の農家の方がどうかは把握していないのですが、大分県の青年の役員とかと話しをして、夏以降ほとんど収穫できていない農家も沢山いて、そういった面でシンプルに作るのが難しくなっているのだと感じております。しかし、そのような中でもそれぞれの品目、ピーマンならピーマン、西瓜なら西瓜で、普通に収穫できている方もいらっしゃいます。栽培技術であったり、自分が知っている知識によって、生産者によって差がついてきているなという認識があります。やはりそういうところは、私が県の役員でもありますし、この県の組織を利用して、勉強会を開いたりそういう活動をしているのですが、凄い知識を持っているところに講演会を頼むと、講演料などが100万円とか掛かります。今度12月3日に、大分県の現在は試験場の顧問か何かされている国東の林先生という東大出身で、今はお米を作ってもらっているのですが、その方は、元々は研究者の方で農作物の転流に関して高温対策がどんな生理反応を示すのかそういう講演をしていただくのですが、本当に素晴らしい先生に講演をしていただけたと思うのですが、やはりちょっとアカデミックすぎるというか、農家に対して講演するなら、また少

し違うのかなという、どうしても僕たちお金が無いので行政経由でいくとそこまでしか手が伸びないというか、本当はもっとこう別の求心力持っている農家の方は実際に、そういう方が講演会するとなったら、みんな聞きに来ると思います。だからもう一度、勉強し直さなくてはいけないのかなと思っています。昔とは作り方についても、使う資材の選択とかも何使っているのかよく分からないような状況です。詐欺みみたいな話もあったりするので、そういった意味でも、もう一度勉強し直したいという意味で、そういった支援もしていただけると凄く助かると普及効果が大きいのではないかと思います。

それから生産基盤の見直しについてですが、今日田の畑作農家さんはハウスが欲しいです。私が小さい時から父親に、「絶対公務員に補助金欲しいとか言ったらダメだ」とずっと言われているので、普段は補助金欲しいとかお金の話は絶対しないようにしているのですが、地域の代表としてここに座っているという認識で話をさせていただきたいのですが、品目が決まっていない新規就農希望者が去年から僕の元に何人も訪れています。すべてシャインマスカットを作りたいと伝えています。台風に強いし、暑さにも強い、やはりそういう面でも新規が入ってきた時にできるだけ短いスパンで収益を上げてほしい。4、5年後には収入が取れます。出来ることなら日田のこの現状の中で、1年後、2年後でもしっかりと生活ができるくらいの収入が稼げるのがシャインマスカット農家だと思っています。そういうのがちょっと悔しいというのが本音です。私は西瓜農家なので、西瓜のために一生懸命自分自身働いていますし、全部ぶどうの方に連れて行くのも悔しいという気持ちもあるので、出来れば畑作で、ハウスがあれば、もちろん日田にもミニパイプハウス事業という素晴らしい事業があります。一気に日田に建てるためにはもう少し欲しいという気持ちがある、おそらく私だけではなく、皆さんあるのかなという認識です。農業委員的な視点でいうと、農業はお金を稼ぐ事もそうですが、やはり私たちが農村を背負っていかないといけないんだという気持ちが強くなって、東有田も1枚8反もある畑が空いたと伺っておりますし、恐ろしいことが始まっている状況の中で、それを自分もしくは数名で今後背負っていかないといけないと思うと少しキツイなところがあるので、そういうのがあるとまた潮目が変わって、いい流れがもう一回到来するのかなという思いもあります。

14) 今の話で少し私の方から補足というか追加というかお話をさせていただきます。

今日の振興ビジョンの資料3ページで園芸を拡大していくということで、日田市さんの方が非常に補助事業を組んで支援をしていただいている様子が見てとれます。一応県の方には産地づくり計画という物を出さないと県の補助事業が活用できないという風な縛りを設けています。

この日田を代表する品目といえば梨である、ぶどうである、そして西瓜であるという話は度々、並びたって聞こえてきたのですが、残念ながら西瓜に関しては産地づくり計画というものが策定されておられません。ですので、先ほど産直用のミニハウスの事業があるということなのですが、上限が5アールということで本当に産直用のこじんまりとした生産者向けの取組みということで、スイカで食べていこうという人たちの支援策にはそぐわないという内容になっています。ですので、ぜひ日田市さんの方でもスイカの産地づくり計画の策定について前向きに検討していただければと思っています。

また、スイカの生産者さんも若い方からかなりハイレベルな年の方までいらっしゃるようで、高齢の方あと10年くらいしかできないよね？という方々に少しでも稼いでいただくためには、例えばミニハウスの事業の中で、今は扱われていないトンネル資材の補助とかそういったものも対象にさせていただくような形の取り組みがあれば、さらに発展というか販売金額の上昇とかも見込まれるのではないかなという思いもしておりますので、スイカの支援というか産地振興につきましては、そのような体系的に取り組んで頂けるといいかなという要望も含めて話をさせていただきました。

15) 令和2年くらい時の災害ぐらいから、毎年7月の4、5日くらいになったら大雨が降ります。

この頃がちょうど西瓜のシーズンで、せっかく今からいい物が出ていく時にいつも浸水被害で炭素病が出たり、それを何回か見てきました。これはどうにかしないといけないということで、県の今の生産流通部長と一緒に話をしているのですが、それで今西瓜の生産者にアンケートを天領西瓜さん、日田西瓜さん、個人でやられてる方もいるので、そういった方々に農協さんと県と市と一緒にアンケートを行っているところです。そういうのを含めてこの地域の西瓜産地をどうやってやっていくのか…。みんなが規模を拡大していくのか、規模拡大がないと産地計画に載っていきませんので、規模拡大していく考えがあるのか…。そういうところを見ながら、今後の展開を国、県の事業を十分活用させていただいてやっていきたいと長期の計画を立てていますのでそこは連携していきたいと思っています。そして、ミニハウス事業はあくまでも産直事業ということですので、先ほどお話ありましたが単なる作るだけではなくて遊休ハウスの活用、遊休ハウスを借りてそこにビニールを張る、そういうことも補助の対象にしておりますので、なるべく活用をしていただきたいと思っています。

- 16) 確かにビジョンで色んな方角から入るのはいいですが、今やはり生産量や後継者ということでいくと、日田市農業振興ビジョンの中でも重点的にやるべきところがあるのではないかという風に思っております。

特に梨については、昨年 2,700 トン、今年 2,100 トン、と 600 トン一気に落としています。台風も来てないのに 600 トンも落とすのは異常中の異常です。同じように他の品目でも出てきているということで、実際に私も実家で農業を行っていますが、農業者というものは本来先を見てやるべきことかもしれないですが、実際当たらないと変わらないという、それが今のこの環境に当たって、初めてそこで何かしなければいけないというところに来ていると思います。やはりここを変えていく、もう少し前に出ていくところと一緒にやっていかないと今後は厳しいのではないかと、特に若い方が今就農していただいているのですが、若い方はその辺はもっと前に出てもらいたいというのが一つあります。こういった教育というのは必要ではないかと思っています。

2 点目が、今土地の調査が行われています。貸したい人も多々いるのですが、きっと日田の土地の中には畑地、要は、私は山間部ですが山間部は耕土が浅いです。田んぼの中でも耕土が深い赤土で深いというようなところにつきましては、水稻以外に有用な農地、畑地としても使えるところも多々あるかと思っています。こういったところをもっと発信することによって、若い方に、今運送は頼んだり、自分で持って行ったりできるので、そういった有用な農地は新たに開発するよりはそういった情報を積極的に出していただき、マッチングすることによって若い方が農地をもっと有効的に活用できる、それが中山間機構であり、またそれが地域計画ではないかなと思っています。ただ、これをすることによって、今後は地域農業の中に違う人が入ってくことで、色んな弊害も出てくる、こういったものも早めに整理していかないと中山間の絡みがあったり、地域の出事で水路掃除とかといった問題もでてくると思いますが、ただ農業を活性化していくためには土地の情報がもっともっと表に出て、それを若い方にもっと使っていただく、それが一番お金を使わなくて、活性化につながるやり方ではないかと思っています。

一方で山間地域は、次から次へと土地が空いている状況、こういったところは使えるように何か工夫しなければならないと思います。それが狭地直しをしたり、積極的にそういったことをすることによって、山間地域は山間地域でやはり今いる環境を、平坦ではできないが山間部では出来るという物もあるので、こういったものを並行していかないと今後のビジョンというのは、10 年先日田市の農地も約 50% 以上は 70 歳が今作っているという状況、これが 10 年経つと 80 歳ですから、一気に引くということですので、今のうちに若い方が少しでも面積を使ってもらえるような情報発信というのは必要ではないかと思っています。このような部分が特に重点的にお願いしたいところです。

- 17) 私自身は新規就農者なので、その立場でお聞きしたいのですが、自分も受給している新規就農者総合支援事業についてです。自分の場合は就農してから5年間、毎年150万円の支援を受けているのですが、やはり農業を始める初期は特に費用が掛かるので支援はとても助かっています。そこで質問なのですが実際に新規就農支援を受けた方々で、どれだけ新規就農者が残っているのか、また仕方なく離農する方もいると思うので、その離農の理由と上手くいっている方はなぜ上手くいっているのかという部分をお教えいただきたいです。どうしても今から高齢化が進み、農業をやめる方も増えるので、新しい風というか元気な方が増えることが日田市の農業を強くしていくことに非常に必要だと思うので、新規就農者が辞める理由と上手くいっている方の経営とか何かまとめてたりするのかなどお尋ねしました。
- 18) 新規就農総合支援という国の事業になります。この制度が始まったのは日田市では平成24年くらいから始まっています。これまで全体で34名の方が活用されておりまして、辞められた方はそのうち10名くらいだったかと思います。病気が理由でしたり、それぞれの個人的な事情がありまして、離農された方もいます。比較的梨とかぶどうの経営が安定している基盤で入られた方は、スムーズに経営の軌道に乗っていくということで就農計画通りに近い取組みができるということで、軌道に乗っている方が多いという風に考えております。
- 19) ここ近辺、大変夏が暑くなってきてまして、作りにくくなったというのは色んな所で伺っております。またさっき言われたおりました梨が600トンダウンしたというお話もあります。私も農家の方とお話する中で、梨の生産者の方が今年の夏、雨が凄く少なくて水をやらないといけなくなった。私の認識では果樹というのは天水だけで作れるものだという風に思っていたのが、もうそんな時代ではなくなっている。だから、意欲がある人は自分で井戸を掘ったり、水源の確保に努められていながらもそれも中々負担が大きいという話をされていました。また、高温対策、県も今色々支援を打とうとは思っているのですが、なんせ県はそう簡単には動けないところもございますので、そういったところは市の方でも、高温対策、寒冷紗とか耐熱シートとかまた既存施設のボーリングとかということもこの先ですね、検討の余地、考えていただければと思っております。よろしくお願いいたします。
- 20) 今の暑さ対策なり、色々な事業につきましても今日お見えになっている方々のご意見を受けて、我々も再認識したところです。県の方から言われますと市で何とかやれという話になりますが、是非、県も前向きに検討していただきたいなという風に思います。市ばかりに頼らず県にしていいただければ、我々も当然協力する気はございますのでよろしくお願いいたします。
- 21) 農業成長産業化推進本部会議の分科会が12月から開催されるようになっているようですので、そういったところで包括的な支援について一緒にお話しさせていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
- 22) 来年の2月に大分県の方で、農業成長産業化推進本部が全県的に立ち上がります。それに先立って、先月日田市でも全県の市町もそうですが、日田市でも市の農業成長産業化推進本部が立ち上がりました。その中でWG(ワーキンググループ)というのをその中に3つほど作っております。その中では、大分県全体で取り組む課題というのは当然県から下りてきますが、今市の中で色々な課題等の洗い出しを行っております。そういったものをWGの中で、課題を認識してどういふ風にして行っていくかということが先ほど言われました形でございます。そういった今まで中々県、市、農協さん関係団体でそ

それぞれのセッションで話をすることがなかったので、これは非常に良い機会だと思っています。こういったものを進めていくことによりまして、この令和 9 年には見直しをしていかないといけない農業振興ビジョンにも、今後の将来を見据えた計画等を組んでいく必要もあると思っていますので、県の成長産業化部門また市の成長産業化の取組みにつきましても、また皆様にもご報告しながら色々なご意見をいただきながら、進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

8. 閉会（事務局）